

おはなし散歩道

鉄兜と丸い羊羹

湯沢町 富樫あい子

少し、昔のはなしです。山の木々が芽吹く頃で突然、黒い雲がきりきり巻ながら谷間に迫ってきました。

「ばあさん逃げろ！」炭焼きをしていたおじいさんが、ばあさんの手を引いて洞穴にもぐり込みました。

「おや、あれは？」山が割れるような音です。ふたりは体を丸めて耳をふさぎました。

しばらくして、おじいさんは、おつかなびつくり洞穴から外を見ました。童巻だあ……と、肩を落し突っ伏しました。

根こそぎ木々が倒れ、家が跡かたもなく、何ひとつ残っていません。炭小屋も、炭を焼く窯もすべてなくなりました。おばあさんが、ぼう然

と立ちつくしています。そこへタヌキが毛を逆立てやって来ました。おばあさんが作るイモや豆、ソバの実などを食いちらかしていた、いたずらタヌキです。

「タヌ公、大丈夫だったか。おまえが食い荒らした穀物もなくなつたよ。どうすべなあ？」

「ばあさん、しつかりしろ。タヌ公もガンバレよ」おじいさんが励ましました。タヌキは、うなだれて、トボトボと山に消えて行きました。

翌日、すべてをなくしたおじいさんは、洞穴に置いてあつた少しの炭を町に売りに行きました。

そのお金で寒天と砂糖と小豆を買ってきました。「丸い羊羹を売ろう！」炭焼き窯がなくなつたおじいさんは、丸い羊羹

をおばあさんと作り、売ることになりました。ところが煮炊きをする鍋がありません。

「困りましたね……」

「いや、本当はお。鍋を買う金がなかつたのじや。山に入って、何かさがそうと思つてのお」

「一緒に行きますよ」

ふたりは、山の中を歩きました。皿のような石や枯れ木を拾つて鉢に作るうとか、手に取って見ています。中々、手ごろな道具がみつかりません。ふたりが考え込んでいるところに、炭焼きの時かぶつていた鉄兜が見つかったのです。鍋にぴつたりです。

「童巻がこんなところに、落としてくれて……」

ふたりは、顔を見合わせました。

「鍋にしよう！」

「そうしましょう」

おばあさんは、にっこりして大きくうなずきました。急いで家に帰り小



豆を煮ました。

「うまく煮えましたよ」

おばあさんはうれしそうです。ふたりは夜なべにアンを練り、手のひらで丸めて丸い羊羹を作りました。

「鉄兜には助かりましたねえ。今日は、羊羹を売

「よかつたですね。タヌ公にも食べさせたいね」

「今夜は、いい月夜じゃそろそろ来るだろう」

ふたりは、谷川に鍋を洗いに行きました。

「鉄兜には、本当に助けてもらいましたね」

おじいさんが、ごしごしと鉄兜を洗い出した、そのときです。

キューン キューン。泣き声が聞こえます。あたりを見渡しましたが誰もいません。

また洗おうとしたとき、鉄兜から大きな尻尾が出て、素早く逃げました。

「おや、あれは？」

山に消えて行く姿に、タヌ公！

いたずらタヌ公でした。「鉄兜はおまえだったか」

「熱かつたらうになあ。ありがとよお。丸い羊羹を食べに来いよな」

ふたりはタヌキが消えていった山に向かつて大きい声で礼をいいました。

おしまい

(さし絵・小出 茂)

「お蚕様」の守り神

八王子市 瀬沼和重

暦、私達が生活する中で、暦を忘れることはありませぬ。その暦の中に十二支という考え方があります。この十二支は、「子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥」という十二の動物を意味しております。その中の六番目にあたる「巳」は蛇です。蛇は十二支の動物の中でも、一番嫌われがちです。

しかし、私達の街「八王子」では、蛇は多くの方々に「守り神」として崇敬されてきました。と言いますのも、八王子市という街は、昔々は織物の街でした。

織物の材料と言えば、絹です。絹糸を作るのは養蚕です。春蚕、夏蚕、秋蚕と、年三回の養蚕がおこなわれます。この養蚕こそ、八王子市の財政

を豊かにしてくれました。そして、この養蚕をするというのが、また実に大変です。

小さい「お蚕様」を大事に育てるのは、桑の葉を細かくして食べさせます。この時、お蚕様は、桑の葉を一生懸命食べます。まるで、雨が降っているようで、ざあ、ざあ、と音を出して食べます。しばらくすると大きくなり、繭を作り始めます。

この時、大きくなったお蚕様をネズミが襲い、食べに来ます。

その時こそ、守り神である、蛇の出番です。蛇は待っていたとばかりに、ネズミを頭から食べてしまします。このような理由で、お蚕様の守り神なのです。

昔、私の家にも大きな蛇が屋根裏に住んでいま

した。守り神ですので、各家では保護してきました。八王子市には、各地に蛇を祀った社があります。大谷の弁財天(大谷町)、御所水弁天(台町)、打越弁天(打越町)、そして高尾山の福德弁財天など、沢山の社があります。

また、この弁天様にも、色々の役目があります。高尾山の弁天様は技芸弁天といつて、琵琶を持つ

ています。これは、みなさんが習う、琴、三味線、琵琶が上達するようにお願いすると、益々、上達するそうです。良く芸者さん達が参りに来るそうです。

どうぞ、高尾山に登られたら、この福德弁財天にお参りして下さい。この弁天様も美人です。そして、習い事も上達する事でしょう。



高尾山の琵琶を持つ弁財天様(弁天洞穴前)

- 高尾山報助成金志納者御芳名(順不同・敬称略)
- 文京区 永井 溢子
  - 八王子市 谷合 高道
  - 町田市 佐藤 克男
  - 日野市 君塚 幸雄
  - マールズ市 山本 幸子
  - 立川市 小林 康久
  - 秩父市 松吉 佐和子
  - 八王子市 秋山 論
  - 杉並区 玉沢 明男
  - 三鷹市 長田 藤子
  - 八王子市 中村 里子
  - 熊谷市 丸角 一男
  - 前橋市 (街)野口組
  - 八王子市 荻島 林七
  - 前橋市 佐藤 征子
  - 葛飾区 善福 院
  - 川崎市 天沼 寛文
  - 前橋市 櫻井 典子
  - 八王子市 嶋村 世津子
  - さいたま市 水岡 健二
  - 日野市 岡田 志美子
  - 新座市 彰山 粧麗
  - 太田市 大川 晴生
  - 世田谷区 慶野 弘子
  - 館林市 田村 光一
  - 中村 武